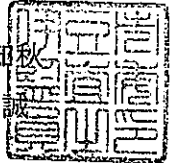


伊豆市監査委員 告示第8号

地方自治法第199条第4項の規定に基づき定期監査を実施したので、同条第9項の規定により、監査の結果を次のとおり公表する。

平成30年11月29日

伊豆市監査委員 宮内 知秋  
伊豆市監査委員 杉山



記

1. 監査の期日 平成30年10月30日(火)

2. 監査の対象 教育部 学校教育課、社会教育課、図書館

3. 監査の方法

提出を求めた監査資料等に基づき、各担当課の説明を受けた後、事情聴取及び関係書類の審査を行った。

4. 監査の結果

監査を実施した範囲においては、関係法令等に準拠して執行されており、おおむね適正に処理されているものと認めた。

5. 監査の概要、意見

対象部課の監査結果の概要及び意見は、次のとおりである。

教育部

(1) 学校教育課

- ① 放課後児童クラブは、市内6か所の施設で運営されている。そのうち中伊豆放課後児童クラブ(春風会)、天城放課後児童クラブ(春風会)及び修善寺南小学校放課後児童クラブ(こひつじ園)に、利用児童の増加がみられる。今後、幼児教育の無償化が進む中、利用者の増加に伴う長期的な課題として、定員超過による放課後児童クラブの拡大には、実施場所の確保も課題として検討していただきたい。合わせて、児童館としての機能拡大にも向けて検討いただきたい。土肥地区では小中一貫校の教育成果を放課後児童クラブ(社会福祉協議会)まで広げ、中学生の放課後児童クラブへの関与など新たな展開を期待します。

- ② 国は教育のICT化に向けた環境整備5か年計画を策定し、本年度から2022年度まで積極的なICT環境整備と活用を予定している。具体的な目標として①学習者用コンピュータを3クラスに1クラス分程度整備、指導者用コンピュータを授業の担任教師1人1台、大型提示装置・実物投影機を100%整備、超高速インターネット及び無線LANを100%整備、統合型校務支援システムを100%整備、ICT支援員を4校に1人配置などへの経費について計画期間内で単年度1,805億円の地方財政措置を講じることとされている。

市内6小学校及び3中学校（土肥小中一貫校を含む。）には、パソコン教室に生徒用パソコン35～40台と共通のソフトを設置、土肥小中一貫校の英語ルームにはタブレットPC26台、プロジェクター4台、実寸大投映システムや、各教室と特別支援教室に65型液晶ディスプレイ電子黒板、書画カメラ（実物投影機）が整備され、英語の学習や各授業でこれらの機器を活用されていることを確認した。今後のICT化による操作等の技術的支援について、IT専門業者や学習塾企業から人材派遣や連携を検討し、導入機器を最大限活用した授業運営の効率化を期待します。

- ③ 学校施設改修によるエアコンの設置については、既に設置済みの土肥小中一貫校を除き市内小中学校78教室に設置を計画し、本年12月定例議会に補正予算を提出する準備とのこと。導入には機種を統一化し、機器の異常時に改修等の対応をしやすくし、新中学校への転用も考慮していくとのこと。ただし、各校ともキュービクル（高圧受電設備）の増設が必要となるため、小学校低学年と中学校3学年を優先して設置する予定であることを確認した。

- ④ 就学援助費の認定状況については、次のとおりの認定人数を確認した。就学者全体の8%が認定を受けている状況である。（単位：人）

学校	年度	平成29年度	平成30年度	対前年度
小学校（うち要保護数）		73（5）	75（6）	2（1）
中学校（うち要保護数）		49（3）	49（1）	0（△2）
義務教育（うち要保護数）		—	11（0）	11（0）
合計		122（8）	135（7）	13（△1）

今後も就学児童生徒の経済的理由による就学困難者の把握に努め、認定に漏れのないよう対応願います。

- ⑤ 学校支援員の活動状況では、次のような雇用状況である。（単位：人）

学校	年度	平成29年度	平成30年度	対前年度
小学校		26	25	△1
中学校		9	7	△2
義務教育学校		—	4	4
合計		35	36	1

小学校の支援員には、特別支援、発達障害や学習が劣る児童の補助業務のほか、パソコン操作、ネット通信でのモラル指導、各学校のホームページ更新などを行う情報支援員と音楽学習を支援する音楽支援員がいることを確認した。

- ⑥ 土肥小中一貫校の運営状況について、平成 30 年 5 月 21 日現在の生徒数は次のとおりである。

(単位:人)

学部	学年組 (特別教室含む)	男子	女子	合計
初等部	1年	7	5	12
	2年	5	3	8
	3年	6	4	10
	4年	7	16	23
中等部	5年	8	5	13
	6年	8	7	15
	7年	4	7	11
高等部	8年	10	9	19
	9年	9	11	20
合計		64	67	131

初等部と高等部との年齢差が大きいため、全校生徒への統括した話をするのが難しいとのこと。教員数では中学校 7 人に 1 人加配され、小・中学校免許を持つ高等部等の教員が初等部や中等部の授業を支援できるなど教育に余裕ができたとのこと。テストなどは 3 学年分をつくるため、業務が増えた部分もあるとのこと。年度末にはアンケートを実施する予定であり、問題点をしっかり精査し、早期にデメリットを解消するように対応願いたい。小中一貫校の教育成果は、全国に対する伊豆市ブランド力向上の一助にもなる。地元と関係者の最大の努力を希望します。

- ⑦ 各委員・相談員の活動について、結核対策委員会は、医師、学校教育関係者等 5 人から構成され、結核に関わる児童生徒 2 人の審議を行った。特別支援コーディネーター 1 名は、発達障害や知的障害等を抱える児童生徒の指導、相談に対応し、学校巡回、各校のケース会議に参加している。特別支援巡回相談員は、学校からの要請により障害の程度・状況を客観的に把握するための検査（WISC 検査）を実施している。スクールソーシャルワーカー（SSW）は、児童虐待、養育ネグレクト等、児童の就学に影響する家庭環境等の改善を求めて支援ネットワークを構築し支援する福祉の専門員として 2 名を任用している。学習支援教室指導員は、現在 2 人で毎週、城山活動支援センターを拠点に不登校の児童生徒に学習の機会（午前中 2 時間）を提供し、学力の補充や学校生活復帰への指導を行っている。就学支援委員会は、障害のある児童生徒について、適切に就学に関する支援を行うための審議機関として 15 名の委員で組織し、本年度 3 回開催をする。いじめ問題対策連絡協議会（委員 17 名）・いじめ問題調査審議会（5 名）は、いじめ防止対策法に基づきいじめ問題の把握、施策の推進、分析等を行っていることを確認した。
- ⑧ 市内いじめの重篤なケースの報告はないが、軽微なものについてもカウントするようになり、2017 年いじめの県内認知では小学校 7,029 件（前年比 2,136 件増）、中学校 3,052 件（前年比 398 件増）でいずれも増加しており市内学校での報告数も増加している。インターネットや SNS によるいじめも増加しており、人権教育や相手を思いやる心を育て

る指導を継続していただきたい。不登校（長期欠席者）の状況では、欠席の要因がいじめによるものは無いとのこと。しかし、平成 29 年度の市内小中学校不登校出現率が県不登校出現率（小学校 0.66、中学校 3.37）を上回る小学校 0.75、中学校 4.63 であり、家庭に係る状況、友人関係をめぐる問題となっているとのことの説明を受けた。家庭の状況については、民生児童委員、こども課、社会福祉協議会、地域などで総合して解決の道を模索して頂きたい。

- ⑨ 教職員の健康管理状況では、平成 29 年度の定期健康診断結果について次のような報告を受けた。

(単位:人)

区 分	受 診 対象者	受 診 者	受診率 (%)	事 後 措 置				
				勤務制限 者等	要医療者	要観察者	異常なし	不 明
一般健康診断	62	62	100.0		6	5	48	3
指定年齢診断	27	27	100.0		6	7	12	2
人間ドック	81	81	100.0	2	22	26	27	4
合 計	170	170	100.0	2	34	38	87	9

- ⑩ 給食センターの運営委託については、次の調理業務と配送業務をそれぞれ委託していることを確認した。年 6～7%の食べ残しがあり、ゴミ減量化の取組として原因を調べ生徒への適量配膳に配慮しつつ、食品ロスの取組の検討と併せ地元食材の利用、栽培方法、流通などの食育教育を期待したい。

○調理業務

施設名	委託業者	調理食数	受配校	契約金額	契約期間
中伊豆給食センター	シダックスコントラクトフードサービス(株)	約 950 食	修善寺小、熊坂小、修善寺東小、中伊豆小、中伊豆中	年額 41,191,200 円	H28 年度から H31 年度 まで 4 年間
天城給食センター	東京ケータリング(株)	約 730 食	天城小、天城中、土肥小中一貫、修善寺東小	年額 36,456,480 円	
修善寺中学校	(株)レクトン	約 410 食	修善寺中学校	年額 21,303,000 円	

○配送業務

施設名	委託業者	調理食数	受配校	契約金額	契約期間
中伊豆給食センター	東海輸送(株)	約 950 食	修善寺小、熊坂小、修善寺東小、中伊豆小、中伊豆中	年額 7,468,200 円	H28 年度から H31 年度 まで 4 年間
天城給食センター	東海輸送(株)	約 730 食	天城小、天城中、土肥小中一貫、修善寺東小	年額 9,784,800 円	

(2) 社会教育課

- ① グリーンコンサートは、市民が気軽に鑑賞できる質の高いプロのオーケストラの演奏会により、文化度の高い市民性を醸成するため毎年 1 回開催している。一昨年から会場を伊豆の国市アクシスかつらぎにすることで、読売交響楽団やピアノコンチェルトも公演を扱えるようになり、楽団、曲目、演奏ジャンルの幅も広がり、多くの客層に鑑賞の

機会を提供している。本年度は東京交響楽団伊豆公演(11月25日)を企画し、有名なクラシックの曲目が行われる。市民は一般入場料の半額(2,000円)で鑑賞することができ、入場者数も安定して確保できている。入場者の満足度も高く市民に定着したコンサート事業となっている。本年度の事業予算は5,077千円で主な支出はコンサート委託料3,789千円である。また、伊豆の国市の分担金として500千円を計上している。

② 文学のふるさと事業は、湯ヶ島ゆかりの井上靖の作品の感想文、感想画のコンクールやイベントを開催し、地域の潜在的な魅力を再認識するとともに、文学の郷「湯ヶ島」を構築すべく、地域活性化に文学を活用した支援を行っている。本年度のあすなる忌の開催では、劇団「しろばんば」の公演を予定している。文学の郷構想は、10年後の湯ヶ島地区のビジョンを総合政策部、建設部、産業部、天城湯ヶ島支所と地域住民と連携して構想を作り上げる予定で、現在月1回のペースで協議しているとのこと。文学の郷構想策定支援業務委託として10,000千円を計上しており、構想は冊子化し、ダイジェスト版を配布予定するとの説明を受けた。なお、文学の郷構想は長年のメイン政策である。「文学」という抽象的概念から井上靖と川端康成の作品などにより、人々の人生に魅力を感じ、何かを共感し重ねて当地で触れ、体感し、人生の喜びを味わう仕掛けの蓄積が必要だと思う。本件は本気度が試されており、伊豆市のブランド力向上の真のツールとなることを期待します。

③ 社会体育振興事業は、誰でも気軽に参加できるスポーツ教室、地区への出前スポーツ教室の開催、体育協会やスポーツ少年団への支援、静岡県市町対抗駅伝競走大会への出場の支援を行っている。また、本年度は高校総体自転車競技大会が日本サイクルスポーツセンターで開催され、実行委員会事務局を務めたことを確認した。スポーツ推進委員の事業では、運動能力向上委員会にて跳箱、縄跳び、鉄棒など子供の運動支援は保護者からも良い評価をいただいている。体育協会に委託するスポーツ事業では、女子バレーボール大会への参加チームが減少し現在4チームとなっており、大会の見直しが必要とのこと。市民向けのスポーツメニューに自転車やノルディックウォーキングなど、高齢者も参加しやすいスポーツ教室等の採用も期待します。これが健康寿命の延伸の一助となることのアピールもお願いしたい。

④ 教育委員会が所管する指定管理者の指定管理施設は、修善寺体育館・修善寺グラウンド、狩野川記念公園、狩野ドーム、中伊豆室内・天城温泉プールの4施設となる。概ね管理運営は良好であるが、修善寺体育館については、老朽化による閉館について検討中であるとの説明を受け、天城温泉プールについては、本年度末で閉館することとなった。

指定管理施設	指定管理者	指定管理料	支払方法
修善寺体育館・修善寺グラウンド	伊豆市体育協会	12,245千円/年	月払い
狩野川記念公園	(株)サンアメニティ	10,802千円/年	
狩野ドーム・狩野グラウンド	伊豆市体育協会	9,404千円/年	
中伊豆室内・天城温泉プール	(有)伊豆スイムサポート	34,364千円/年	

⑤ 市内の指定文化財の件数は、次のとおりであった。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

種 別	国指定	国登録	県指定	市指定
合 計	3	23	22	77
有形文化財	2	23	12	41
建造物	1	23	1	4
絵 画	0	0	0	2
彫 刻	1	0	4	12
工 芸	0	0	5	10
書跡・典籍・古文書	0	0	1	3
考古資料	0	0	1	4
歴史資料	0	0	0	6
無形文化財	0	0	0	0
民俗文化財	0	0	0	12
有形民俗文化財	0	0	0	1
無形民俗文化財	0	0	0	11
記念物	1	0	10	24
史 跡	1	0	0	8
名 勝	0	0	0	2
天然記念物	0	0	10	14
文化的景観	0	0	0	0

国指定は、上白岩遺跡(上白岩 663)、木造大日如来坐像(修善寺 964 修禅寺内)、天城山隧道(湯ヶ島字桐山:建造物)の3件となる。文化財保護審議会は、現在13人で構成され、月に1回程度の開催をしている。郷土資料の収集、目録整理では、加殿区小川家の目録整理が終わり、土肥地区の関家の民具や古文書の目録整理に入っているとの説明を受けた。市民に市内の文化財の情報公開に努め、文化財を身近に接する機会として説明会やイベント開催などを増やすよう期待します。

- ⑥ 美術館建設推進事業では、美術館建設基本計画の策定に向けて、建設推進委員会にて次とおりの事業進捗の経緯の説明を受けた。本年度は、美術館建設候補地調査業務委託費1,080千円による候補地選定に関する敷地調査と造成概要計画を作成し、それをもとに建設推進委員会での審議を行うとのこと。市民が誇れる財産としての美術館を目指すことを期待します。

【建設準備委員会】

- (1) 平成26年度 建設準備委員会1回開催(委員6人)
- (2) 平成27年度 建設準備委員会2回開催、市民フォーラム開催
- (3) 平成28年度 建設準備委員会5回開催、地区説明会3地区
- (4) 平成29年1月17日「伊豆市美術館基本構想答申書」提出
- (5) 平成29年2月 教育委員会で答申を報告、市HPに公開し意見を聴取

【建設推進委員会】

- (6) 平成30年2月8日 平成29年度第1回建設推進委員会開催(委員9人)
- (7) 平成30年3月7日 平成29年度第2回建設推進委員会開催  
建設候補地視察と採点、上原美術館視察(下田)
- (8) 平成30年5月15日 平成30年度第1回建設推進委員会開催  
候補地選定に向けた協議

(2) 社会教育課 図書館

- ① 図書館（市内合計）の来館者数及び図書の貸出し状況（4～9月分比較）は、次のとおりとなっている。

項目	来館者数	貸出人数	貸出数
平成30年度	44,343人	14,725人	70,284
平成29年度	44,206人	15,442人	72,177
増減	△137人	△717人	△1,893
前年比	100.31%	95.36%	97.37%

土肥図書館に隣接していた土肥小学校が土肥小中一貫校開校のため移設され、天城図書館も移設のため8月末で休館し減少要因があったが、同期の前年度比では来館者数の減少は見られなかった。入庁5年目までの職員は、図書館利用登録を行い、図書館資料と行政事務へ結びつける新たなアイデアの提案を期待します。なお、行政の保有する公開可能な企画書、構想、決算資料などの市の情報コーナーの設置を期待します。

- ② 図書館講座・教室では、本年度開催の17講座に参加人数1,118人（9月末現在）を数え、狩野川台風60周年事業として、小学生らの作文朗読、被災時の講話を行った。本年度から大人向けの講座を増やし、講座の内容に関連する図書の紹介等により貸し出しの効果がみられたとのこと。新たな取り組みとして赤ちゃんや小さい子供連れの親子でも図書館の利用がしやすい「ベビータイム」を毎週水曜日に設定し視聴覚室を開放することで、利用者（28回363人）の増加に繋がったとの説明を受けた。新たな図書館利用者の開拓に、市民の声や新規講座の提案を受け付けることをPRし、図書館講座の充実を図ることを期待します。まちづくりの拠点として、交流、語り合い、知の活力の源となる元気な図書館施設となる事を希望します。

- ③ ブックスタート事業は、赤ちゃんがいる家庭に図書館から絵本を贈り、絵本を通じて家族が心触れ合う時間をもってもらい、読書や読み聞かせの大切さを知ってもらうことを目的としている。配布は7ヶ月児健康相談日の会場で、図書館職員から保護者に絵本の読み聞かせの大切さを伝えながら直接手渡している。配布状況は次のとおりとなる。

年度	対象者	配布人数	配布率
平成29年度	123人	107人	89%
平成30年度（10月まで）	73人	57人	78%

今後は、絵本2冊の配布を1冊とし、セカンドブックとして2・3歳時に1冊配布することで更に読書の大切さと、図書館利用を案内していくとの説明を受けた。

- ④ 現天城図書館（市山571番地の1）が天城湯ヶ島コミュニティ複合施設市民活動センター（旧湯ヶ島小学校2階）に平成31年4月から移設される。その移転準備状況について現天城図書館は本年9月から休館し、解体工事に入るため、10月末から業者契約により移転図書類の箱詰めをし、新天城図書館への搬入は平成30年12月頃を予定すること。平成31年3月までに開館準備を行う。建物の改修等工事以外の移転予算は次のとおりである。

天城図書館書棚等移転工事	1,266 千円
天城図書館ブラインド等取付工事	749 千円
備品購入	770 千円
案内表示設置	374 千円
備品破棄処分手数料	61 千円
計	3,220 千円

文学の郷構想策定の中で湯ヶ島に関わる井上靖や川端康成などの文学を活かした魅力ある図書館としての環境整備を期待します。